

2020年度（2021年3月期）
第3四半期決算説明会

シチズン時計株式会社

2021年2月10日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

2020年度第3四半期（10-12月期）実績

- 全事業の黒字化を達成
- 主力の時計事業、工作機械事業が想定を上回る

2020年度通期業績予想 上方修正

- 売上高 2,040億円 （前回予想比+20億円）
- 営業利益 ▲105億円 （前回予想比+35億円）
- 経常利益 ▲65億円 （前回予想比+35億円）
- 当期純利益予想は据え置き

営業キャッシュフロー









- 営業キャッシュフローは第3四半期累計でプラスに転換

(単位：億円)	3Q		前年同期比	
	2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
売上高	805	621	▲22.8%	▲183
営業利益	54	21	▲60.2%	▲33
営業利益率	6.8%	3.5%	-	-
経常利益	65	34	-	▲30
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	▲4	-	▲38
為替レートの影響	¥109/USD ¥120/EUR	¥105/USD ¥124/EUR	-	-

- 新型コロナウイルスの影響を受けるも回復傾向を辿り、時計事業・工作機械事業が想定を上回る
- 投資有価証券売却益等、特別利益17億円を計上
- 割増退職金や新型コロナウイルスによる損失等、特別損失46億円を計上

2020年度第3四半期（10-12月期）セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)		3Q	3Q	前年同期比	
売上高		2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
	時計事業	459	336	▲26.8%	▲123
	工作機械事業	143	117	▲17.8%	▲25
	デバイス事業	145	119	▲18.2%	▲26
	電子機器他事業	56	47	▲15.2%	▲8
合 計		805	621	▲22.8%	▲183
営業利益					
	時計事業	48 (10.5%)	15 (4.6%)	▲67.9%	▲32
	工作機械事業	16 (11.6%)	8 (7.6%)	▲46.3%	▲7
	デバイス事業	5 (3.7%)	3 (2.8%)	▲37.6%	▲2
	電子機器他事業	▲0 (▲0.9%)	3 (7.0%)	-	+3
消去又は全社		▲14	▲9	-	+5
合 計		54 (6.8%)	21 (3.5%)	▲60.2%	▲33









2020年度第3四半期（4-12月期）累計連結業績概要 CITIZEN

(単位：億円)	1-3Q		前年同期比	
	2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
売上高	2,249	1,511	▲32.8%	▲738
営業利益	112	▲60	-	▲172
営業利益率	5.0%	▲4.0%	-	-
経常利益	124	▲26	-	▲150
親会社株主に帰属する四半期純利益	70	▲219	-	▲289
為替レートの影響	¥109/USD ¥121/EUR	¥106/USD ¥122/EUR	-	-

- 市場環境は引き続き回復傾向にあるものの、主に時計事業と工作機械事業が減収
- 広告宣伝費を中心に経費を抑制し、188億円の販管費を削減
- 第2四半期に繰延税金資産の一部取崩しを実施

2020年度第3四半期(4-12月期)累計セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)		1-3Q	1-3Q	前年同期比	
売上高		2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
	時計事業	1,183	717	▲39.4%	▲465
	工作機械事業	451	325	▲28.1%	▲126
	デバイス事業	439	332	▲24.3%	▲106
	電子機器他事業	174	135	▲22.1%	▲38
合 計		2,249	1,511	▲32.8%	▲738
営業利益					
	時計事業	82 (7.0%)	▲38 (▲5.3%)	-	▲121
	工作機械事業	62 (13.8%)	14 (4.6%)	▲76.2%	▲47
	デバイス事業	12 (2.9%)	▲7 (▲2.3%)	-	▲20
	電子機器他事業	0 (0.1%)	+1 (1.1%)	+993.9%	+1
消去又は全社		▲45	▲31	-	+14
合 計		112 (5.0%)	▲60 (▲4.0%)	-	▲172

2020年度 下期及び通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度予想 (11/12)		2020年度予想 (2/10)		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,130	2,020	1,150	2,040	+20	+20
営業利益	▲ 57	▲ 140	▲ 22	▲ 105	+35	+35
営業利益率	▲5.1%	▲6.9%	▲1.9%	▲5.1%	-	-
経常利益	▲ 38	▲ 100	▲ 3	▲ 65	+35	+35
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 84	▲ 300	▲ 84	▲ 300	+0	+0
為替レ－ト	¥105/USD ¥125/EUR	¥106/USD ¥123/EUR	¥105/USD ¥124/EUR	¥106/USD ¥122/EUR	-	-

- 第3四半期までの業績を踏まえ、時計事業と工作機械事業を中心に上方修正

2020年度 下期及び通期セグメント別業績予想

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)	2020年度予想 (11/12)		2020年度予想 (2/10)		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高						
■ 時計事業	578	960	573	955	▲ 5	▲ 5
■ 工作機械事業	232	440	247	455	+15	+15
■ デバイス事業	231	445	236	450	+5	+5
■ 電子機器他事業	86	175	91	180	+5	+5
合計	1,130	2,020	1,150	2,040	+20	+20
営業利益						
■ 時計事業	▲ 41 (▲7.1%)	▲ 95 (▲9.9%)	▲ 26 (▲4.6%)	▲ 80 (▲8.4%)	+15	+15
■ 工作機械事業	5 (2.2%)	11 (2.5%)	19 (7.7%)	25 (5.5%)	+14	+14
■ デバイス事業	▲ 2 (▲0.9%)	▲ 13 (▲2.9%)	0 (0.4%)	▲ 10 (▲2.2%)	+2	+3
■ 電子機器他事業	1 (2.1%)	0 (0.0%)	3 (4.2%)	2 (1.1%)	+2	+2
消去又は全社	▲ 21	▲ 43	▲ 20	▲ 42	+1	+1
合計	▲ 57 (▲5.1%)	▲ 140 (▲6.9%)	▲ 22 (▲1.9%)	▲ 105 (▲5.1%)	+35	+35

- 時計事業：新型肺炎の再拡大を受け売上高は弱含みとなるが、利益改善を見込む
- 工作機械事業：受注の回復は想定を上回っており、売上高、営業利益ともに上振れる見込み

<完成品販売>

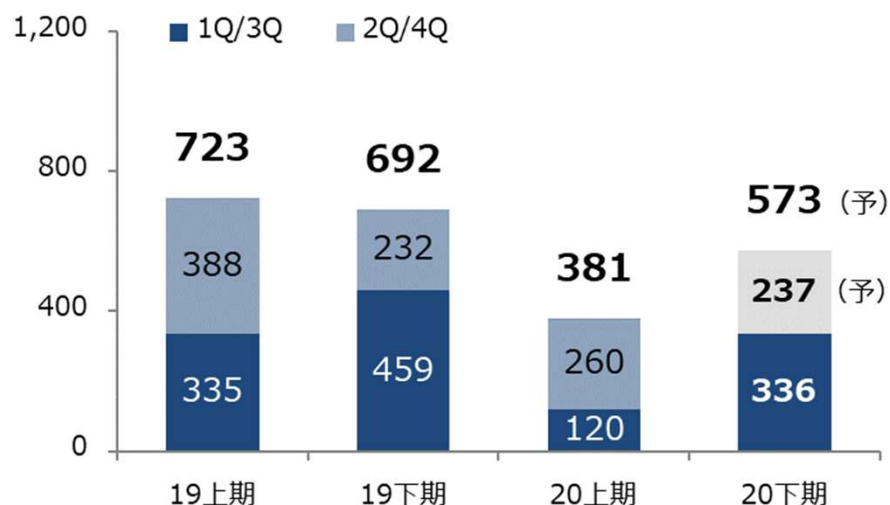
- 海外市場：中国が前期比増収となった他、北米も想定を上回る推移
- 国内市場：インバウンド需要の激減が響いたが、減少幅は縮小傾向

<ムーブメント販売>

- 機械式が堅調継続、アナログクォーツも徐々に回復

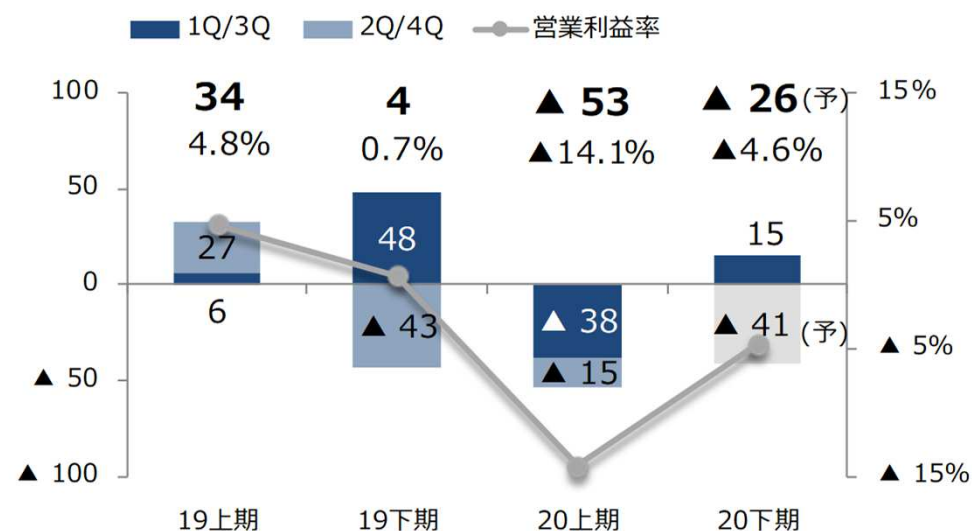
売上高

(億円)

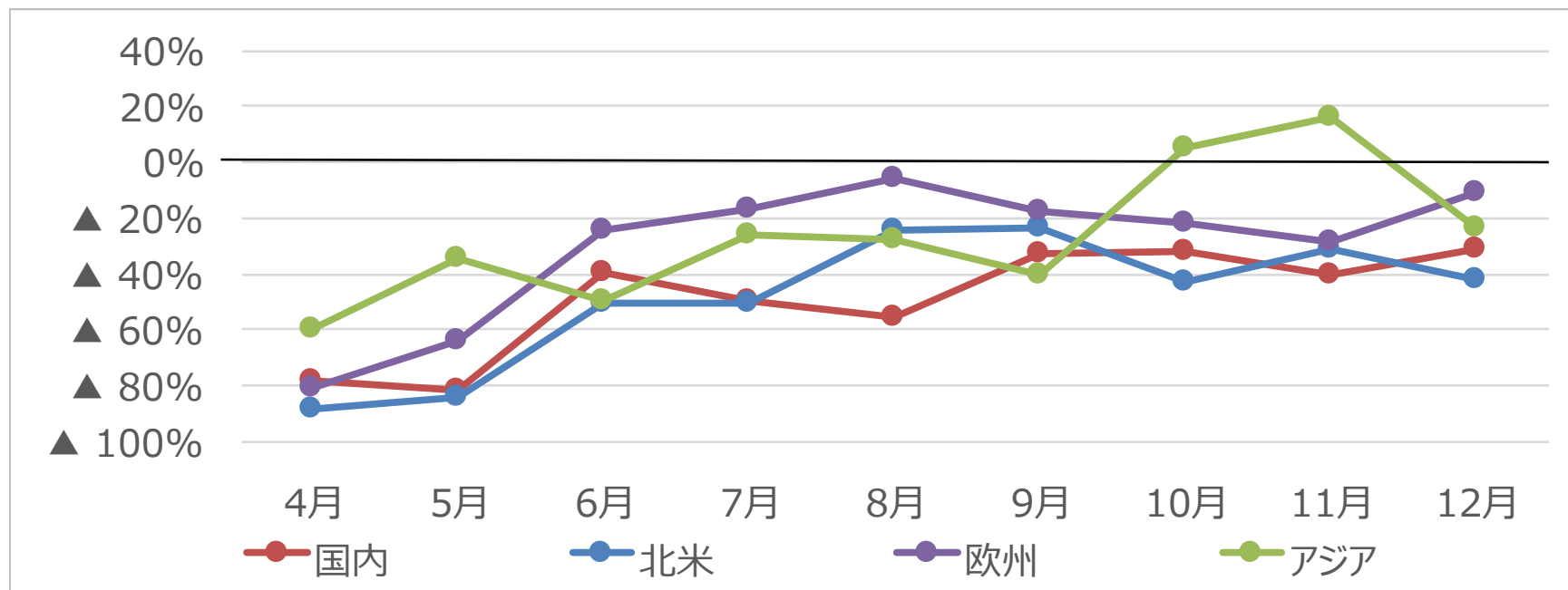


営業利益

(億円)



■ 前年同月比増減率(現地通貨ベース)



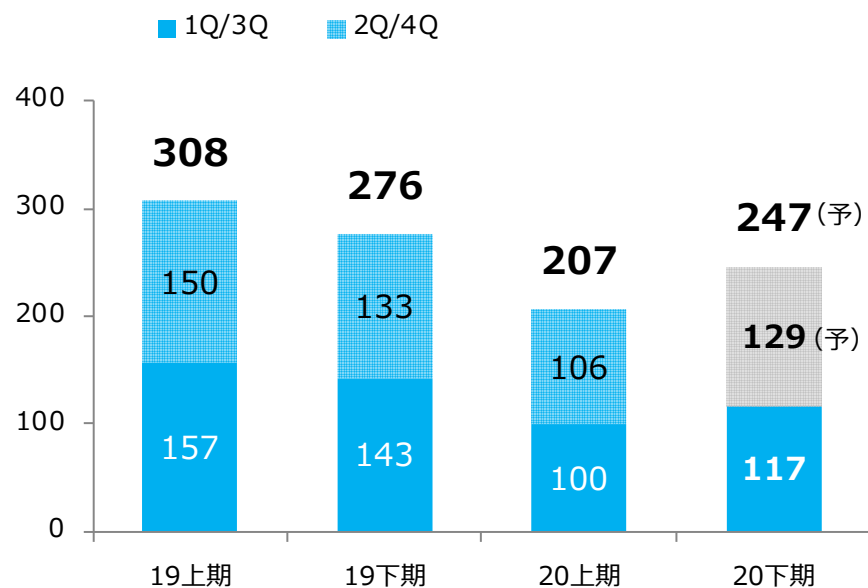
■ 前年同期比増減率(現地通貨ベース)

	1Q	2Q	3Q	
国内	▲69%	▲46%	▲35%	インバウンド需要の落ち込みと内需の低迷を受け、回復に遅れ
北米	▲73%	▲30%	▲38%	実店舗販売は苦戦するも、EC販売が下支えとなり回復傾向維持
欧州	▲57%	▲15%	▲22%	ドイツ等が堅調に推移するも、ロックダウンの再実施により停滞
アジア	▲48%	▲33%	▲3%	中国でECイベント向き販売が活況を呈するなど、回復基調

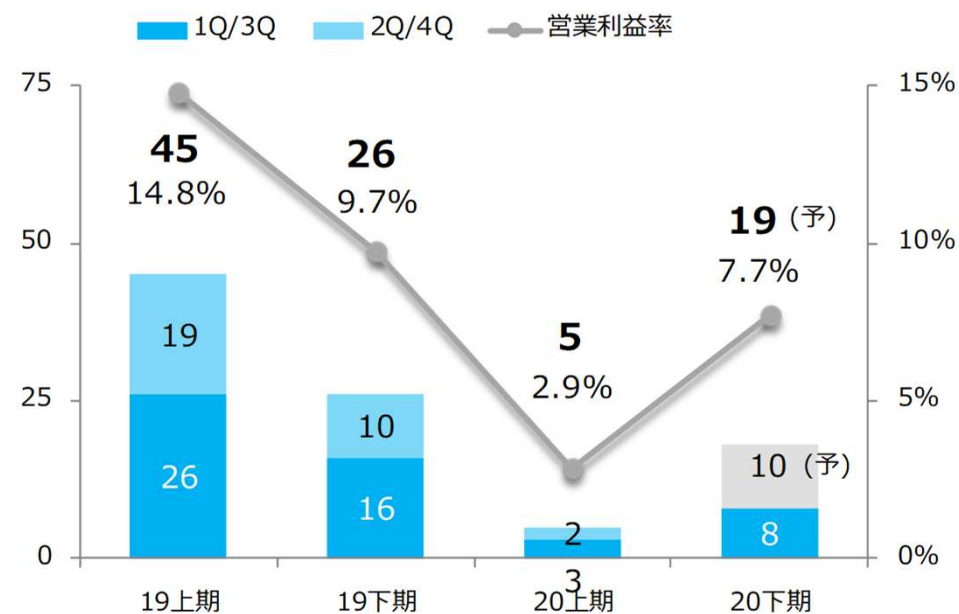
※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。

- 国内市場：設備投資への慎重姿勢が継続も底打ち感は見られる
- 海外市場：中国が好調に推移した他、欧州も健闘し回復傾向

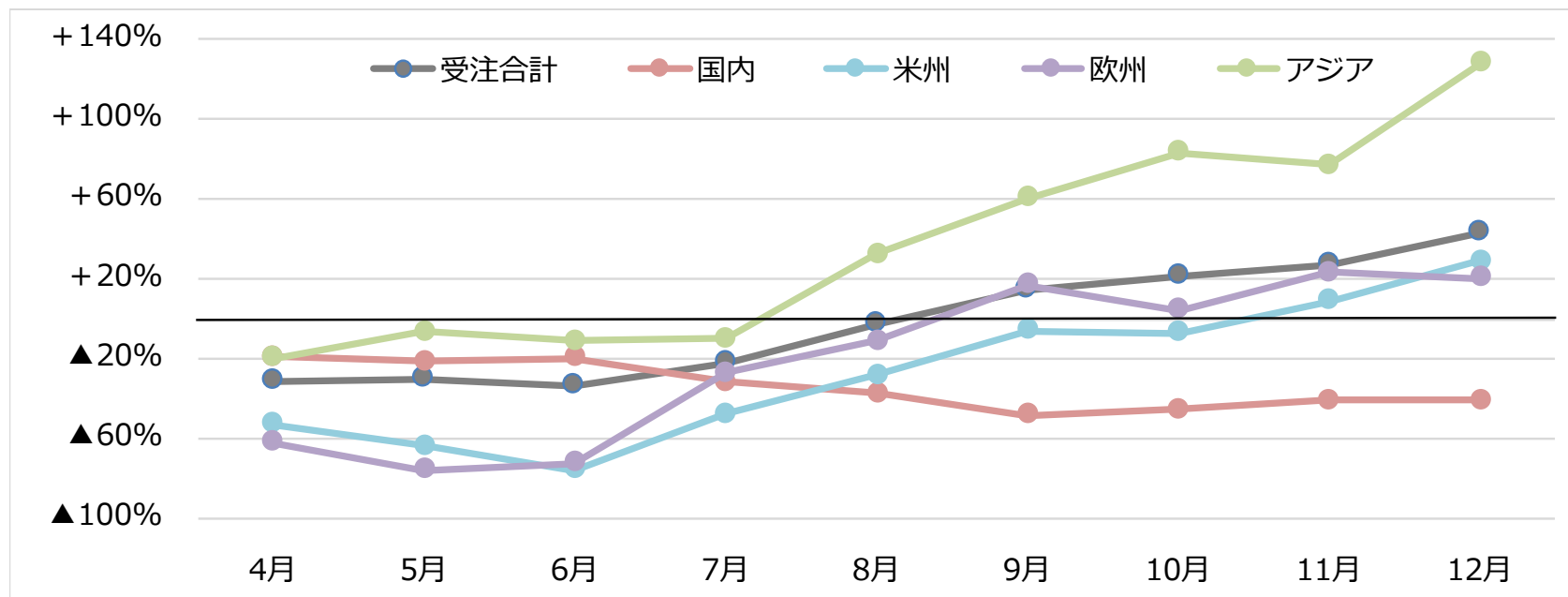
売上高
(億円)



営業利益
(億円)



■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 前年同期比増減率(四半期受注台数)

	1Q	2Q	3Q	
● 受注合計	▲34%	+14%	+43%	中国市場を中心に回復基調が継続。欧州、米州の受注も上向き
● 国内	▲20%	▲48%	▲41%	自動車関連で引き合いが出始めたが、設備投資への慎重姿勢が継続
● 米州	▲76%	▲6%	+29%	新型肺炎の影響で見送られていた医療関連需要が回復し、堅調に推移
● 欧州	▲72%	+17%	+20%	自動車関連は低調に推移しているものの、医療・油圧機器関連が堅調
● アジア	▲11%	+60%	+128%	中国において主にIT・自動車関連が伸長。その他アジア地域も回復基調

LFV(低周波振動切削)技術 ※1

- 2013年からLFVを搭載した工作機械を販売開始し、2020年10月に累計出荷台数2,500台を達成
- 2021年7月にはタレット刃物台に初めてLFVを搭載したミヤノ「ANX42SYY」を発売開始予定
- LFV対応機種 10機種へ



ミヤノ「ANX42SYY」

※1 LFV(低周波振動切削)技術：シチズン独自の制御技術により、サーボ軸を切削方向に振動拳動させ、切削中に刃物があたらない「空振り」する時間を設けることで切りくずを分断させる加工技術。これにより切りくずに関するさまざまな課題を解決し、生産性の向上に貢献。

摩擦接合技術 ※2

- 2020年11月から摩擦接合技術による残材削減機能を搭載したシンコム「L32」を発売開始
- 日刊工業新聞社 第63回「十大新製品賞 モノづくり賞」受賞（2016年「L20-LFV」の受賞以来、4年ぶり5度目の受賞）

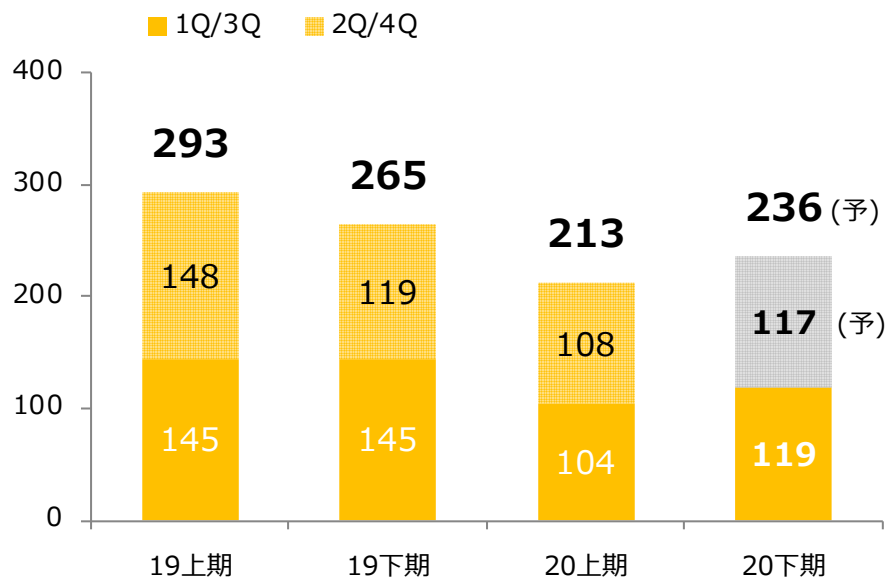


シンコム「L32」

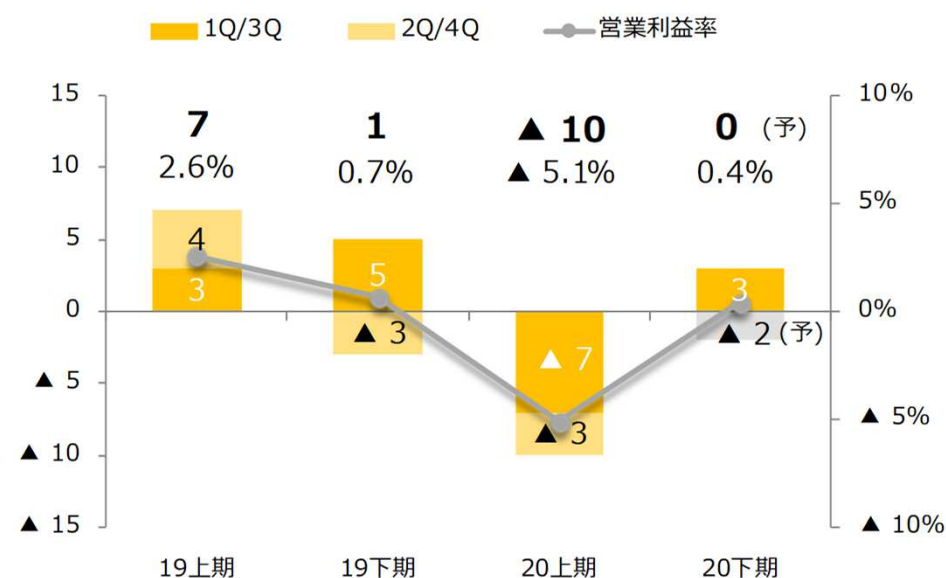
※2 摩擦接合技術：摩擦熱により材料を軟化させ、さらに強い圧力を加えることにより材料同士の接合を行うシチズンの独自技術で加工後に残る残材を大幅に削減。材料コストの削減および環境負荷に貢献。

- 精密加工部品：自動車部品は市場回復に伴い、増収
スイッチは減収となるも受注は回復傾向
- オプトデバイス：照明向け、車載向けLEDの販売が伸び悩む

売上高
(億円)



営業利益
(億円)



CITIZEN